第34号
2018/03

PVかながわ ニュースレター

News

FIT買取期間満了後の対処方法
～「売る時代から使う時代へ」～

2019年11月には最初の家庭約45万戸がFIT買取期間を満了する。以降毎年約20万戸が対象となる（太陽光発電協会集計）。余剰電力は買い取る会社との自由契約になり、買電よりはるかに安い価格での売電が予想される。買電を減らし、自家消費を増やす余剰電力を賢く運用する時代の始まりだ。FIT後の対処方法につて考えてみたので参考にして欲しい。

1. 受動的運用

FIT後も生活パターンは変えず、パワコン更新など最低限の設備維持管理と条件の良い小売電気事業者へ売電契約を切り換える。

2. 能動的運用

生活パターンの変更や設備への追加投資などを実施する。

①生活スタイル変更による自家消費拡大

売電量増を目的に昼間の消費電力を意識して削減しているユーザは、昼夜の生活スタイルと電力メニューを変更し、少しでも自家消費増を考える。自家消費率の増加は10%程度だ。

②設備機器の昼間稼働による自家消費拡大

夜間電力設備機器（エコキュートなど）を昼間に稼働させ、余剰電力の効率的運用する。自家消費率の増加は15%程度となる（2017年6月7日、科学技術振興機構JST発表）。

③蓄電システム導入による自家消費拡大

蓄電池導入は費用が大きいが、自家消費の拡大には有効だ。拡大量は蓄電容量と充放電の制御技術に依存する。2kWhの蓄電池導入で自家消費率が+9%増、10kWhで+30%増と先のJSTは報告している。「フォーラム」では、小容量蓄電池を効率よく運用する技術の説明も期待したい。

④住宅以外の設備導入による自家消費拡大

2017年4月30日（晴天時）の我が家の発電量は19.4kWhで消費電力量（＝自家消費＋買電量）が6.8kWhだ。すべての余剰電力を蓄電するためには12kWh以上の大容量が必要になる。家庭用蓄電池でなく、電気自動車と双方向に送電可能なV2H（Vehicle to Home）を導入し、自動車の蓄電池を活用する選択肢もあり、100%自給自足モデルの事例も報告されている。

⑤改築に伴うPV更新（新たなFIT期間の申請）

PVを設置した屋根は長期間再塗装をしていない状態だ。PVの寿命である30年間を考えると、どこかの時点でPVを取り外して塗装をし直すか、屋根の張り替えをするか、さらには家の改築までも実施する場合も出てくる（「フォーラム」での会員発表）。その際、PVの再使用を止め、新規パネルを導入するのもコスト的には選択可能だ。

（田辺　記）

世話人から

連絡事項

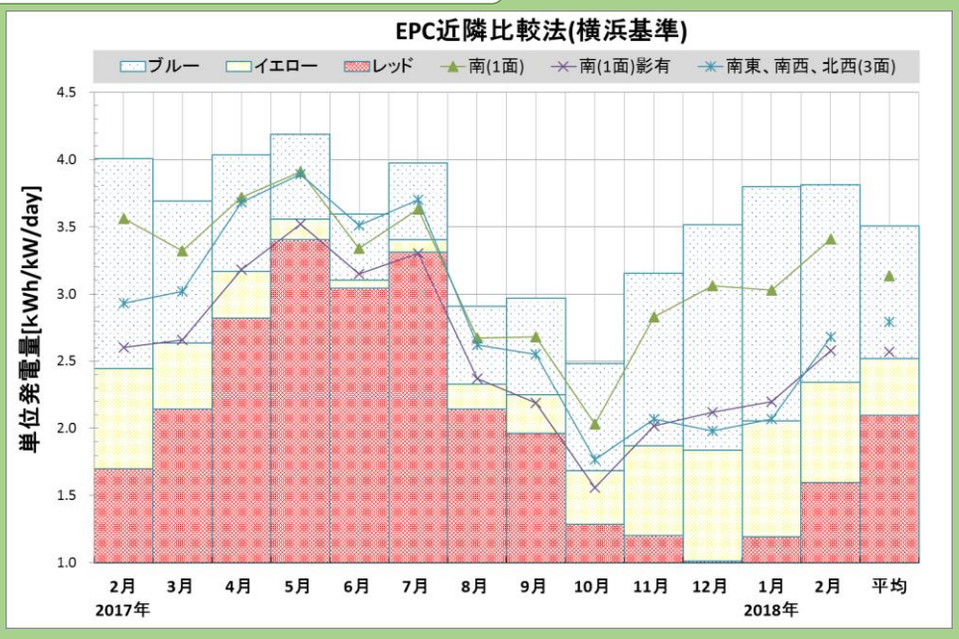
「フォーラム神奈川2018」の出欠、アンケートは、準備の都合上3/20(火)までに、ご返信をお願いします。年に一度の神奈川会員が集うフォーラムですので、是非ともご参加をご検討ください。

今後の予定

2018年3月31日（土）
「フォーラム神奈川2018」
開催予定:「売る時代から使う時代へ」をテーマに検討中。
会場：横浜開港記念会館

2018年4月8日（日）(予定)
ワークショップ第23回
「出前発電所をつくろう！」
会場：「かるがも」(星川駅)
時間：13:00～16:00

今月の単位発電量！



横浜の2月の日照時間は、非常に多かった昨年より少ないものの、平年比で+6%の状況でした。気象庁によると2月の天候の特徴は、「日本付近は強い寒気に覆われることが多かったため、全国的に月平均気温が低かった。しばしば冬型の気圧配置が強まって日本海側では上旬後半と中旬前半を中心に、発達した雪雲が日本海から盛んに流れ込み、北陸地方を中心に記録的な大雪となった所があった。冬型の気圧配置の日や高気圧に覆われる日が多く、低気圧や前線の影響を受けることが少なかったため、東日本太平洋側では月降水量がかなり少なく月間日照時間が多かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。